



# IT 羅針盤

サポート期間への対策は10への移行がベスト?

## 7の機能追加／改良は終了 今後はセキュリティのみ対応

文／仙石 誠

**ウ**ィンドウズ7のサポートが終了した……。そう聞いて驚くユーザーもいるかもしれない。

この1月に終了したのは7の「メインストリームサポート」(図1)。マイクロソフト(MS)のOSは、それぞれサポートのスケジュールが決まっている。原則として、OSの発売後5年はOS全般のアップデートを提供するとともに、ユーザーからの要望の受け付けなど、機能アップを中心とするサービスが提供される。これがメインストリームサポートだ。

それが終了すると、アップデートがセキュリティ関連に限定されるなど、内容が縮小された「延長サポート」が5年間続き、サポートが完全に終了する。

この1月に延長サポートに移行した7は、5年後のサポート終了に向けて、長いカウントダウンが始まったという段階だ。注意したいのは8・1にアップグレードしていない8ユーザー。図1のスケジュールは、各OSの最新版(サービスパック含む)の場合なので、現状では8・1が対象となる。最新版でな

いOSは、次のサービスパック(この場合は8・1)が公開されてから2年間でサポートが終了するのが原則。これに照らし合わせると、2015年10月に8のサポートは終了してしまう。

現状、8ユーザーの現実的な解決策はウィンドウズ10への移行だ。実は、8に限らず、7や8・1ユーザーにとつても10への移行は検討する価値がある。それは、MSが7/8/8・1

を対象に、10発売後1年間は無償アップグレードの提供を保証しているため。それに加えて、10では、サポート期限が設けられていない。サポート終了に頭を悩ませずに済むのだ<sup>[注]</sup>。

7の機能アップは終了、セキュリティ対応のみのアップデートへ

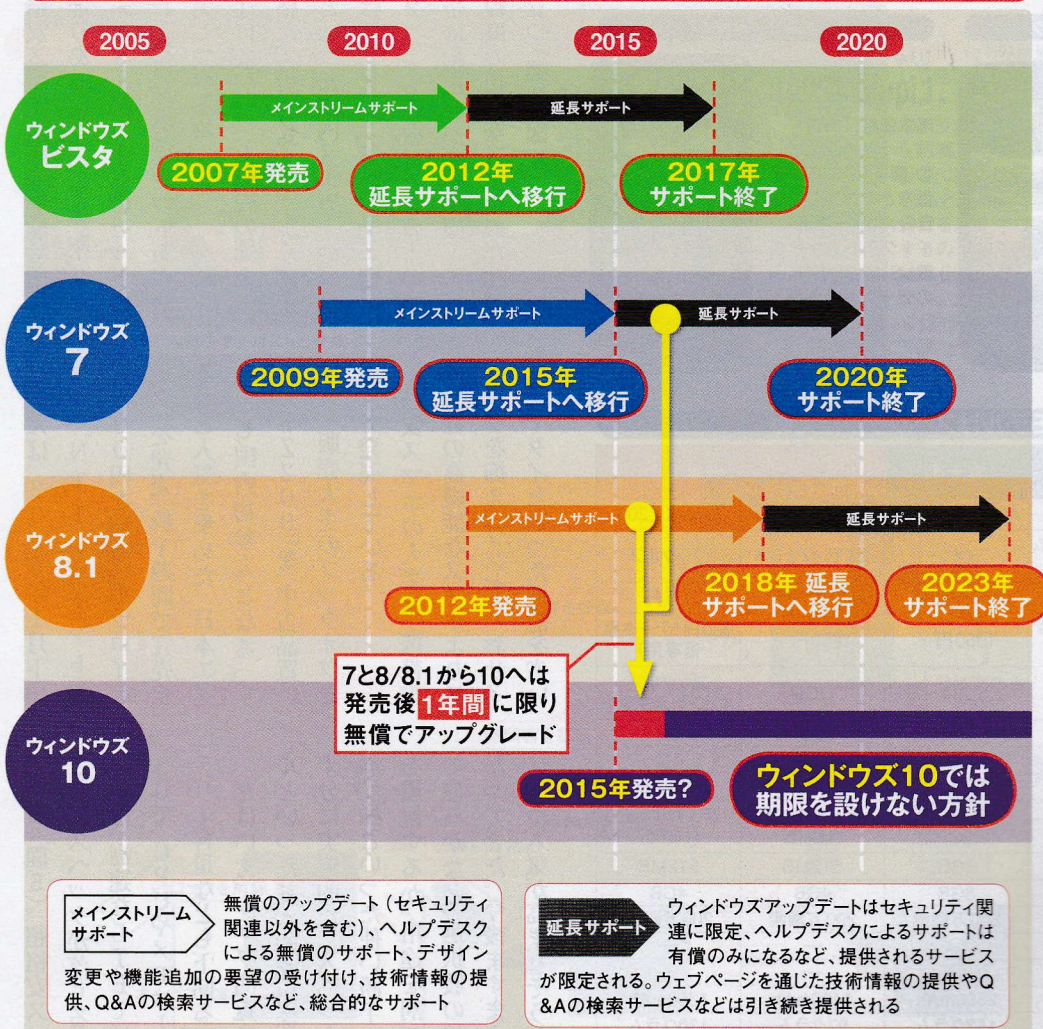


図1 8/8.1までのOSは、原則として製品発売後、5年間はサポート内容が充実した「メインストリームサポート」。その後の5年間は、主にセキュリティ対策のみの「延長サポート」だ。マイクロソフトは、10ではサポート期限を設けない方針を表明している

[注]ウィンドウズ10の詳細および無償アップグレードについては、緊急特集「詳細続報Windows 10」(11ページ)で詳しく解説している